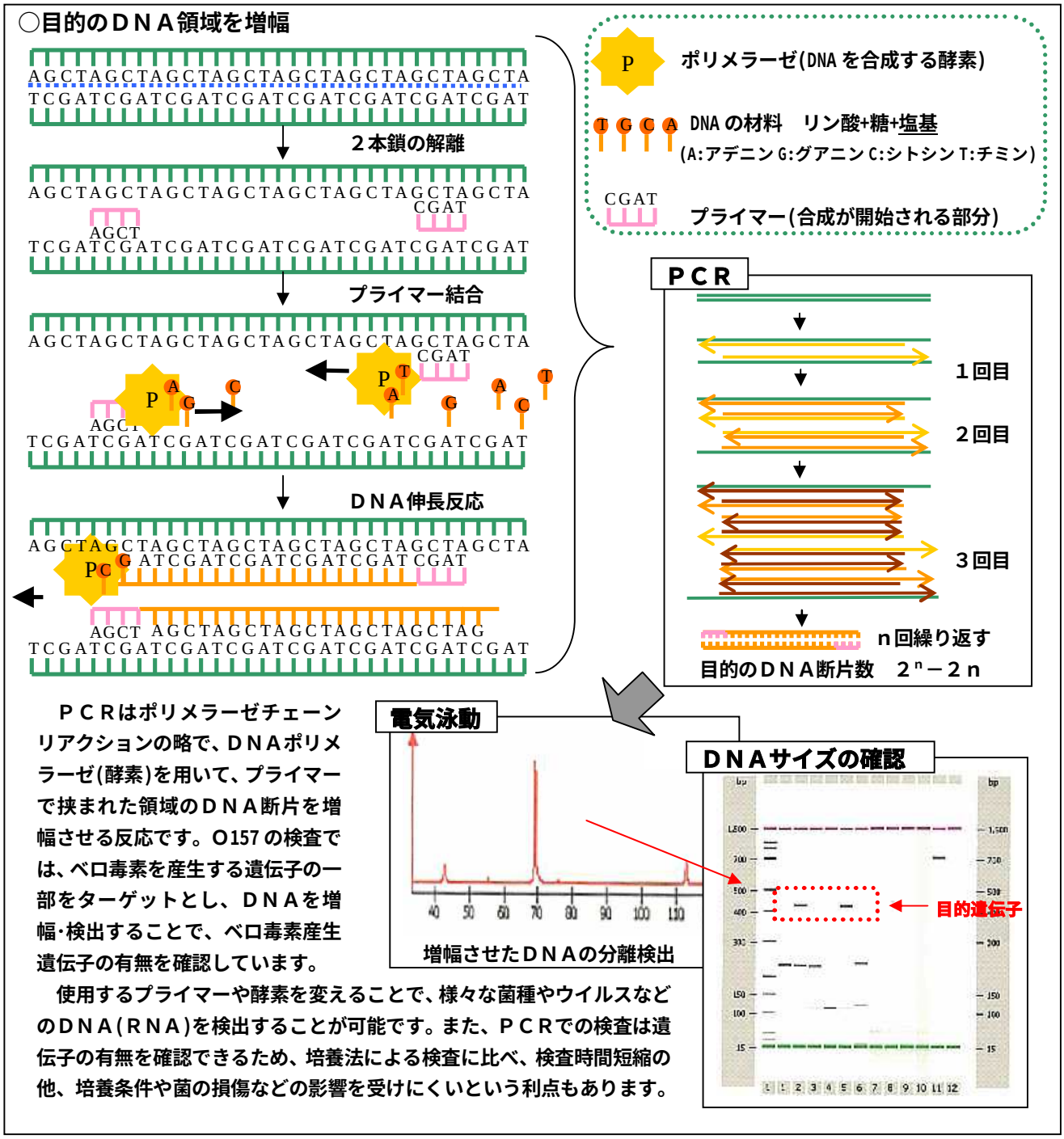
ＰＣＲ法での検査概要



ＰＣＲはポリメラーゼチェーンリアクションの略で、ＤＮＡポリメラーゼ(酵素)を用いて、プライマーで挟まれた領域のＤＮＡ断片を増幅させる反応です。O157 の検査では、ベロ毒素を産生する遺伝子の一部をターゲットとし、ＤＮＡを増幅･検出することで、ベロ毒素産生遺伝子の有無を確認しています。

使用するプライマーや酵素を変えることで、様々な菌種やウイルスなどのＤＮＡ(ＲＮＡ)を検出することが可能です。また、ＰＣＲでの検査は遺伝子の有無を確認できるため、培養法による検査に比べ、検査時間短縮の他、培養条件や菌の損傷などの影響を受けにくいという利点もあります。